

あわゆず ふれず

第41号 2025年5月20日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日 本 語 ネットワーク

外国人の問題を誰もが自分事として受け止めていく社会に ～ともに地域課題を解決するために～

30年ほど前、念願の日本語教師として活動を始めた当初、「どきどき」と「わくわく」が交錯する気持ちを胸に授業に向かっていました。授業が少し進んだころ、外国の方から生活上の悩みを打ち明けられました。その悩みは独力で解決できるものでなく、私は途方に暮れてしまいました。そして、少しずつその人と距離を置くようになりました。力になれなかった苦い思いは今も心の奥に居続けています。

JTMの活動を始めた1997年、県内には12月末現在で2,453人の外国人が暮らしていました。同時期の県人口832,269人に占める割合は0.3%で、339人に一人が外国人という状況でした。最新の統計によると、2024年12月末の本県の外国人数は8,907人で、同時期の県人口683,510人に占める割合は1.3%と過去最高となり、77人に一人が外国人という状況を迎えました。人口減少も加速化しており、県内では1年間に10,000人の日本人が減少するなか、外国人が1,000人増えたことで総人口の減少を押さえている現状が浮き彫りになりました。

活動を始めた頃は、外国人の日本語学習支援はもとより、生活や仕事上の悩みを知り、解決しようとする動きは点在するに過ぎませんでした。30年が経ち、人口減少や少子高齢化に歯止めがかからず、地域経済は縮小の一途をたどる状況となり、新聞紙上でも「外国人労働相談3倍252件」、「働き手 外国人で補う」など、「働き手」としての外国人に関する見出しを目にするようになりました。

しかし、多くの日本人にとって、外国人の問題を自分事として捉えるところには至っていないというのが現実ではないでしょうか。地方では若い世代、特に女性の県外流出が深刻な人手不足や少子化をもたらし、外国人の働き手に頼る構図が顕著となっています。若者や女性、さらには外国人が「自分らしさ」や「持てる能力」を発揮できる職場や地域のあり方を抜本的に変革していかない限り、地域課題は解決に向かわないでしょう。

去る4月26日、私たちは公益社団法人国際日本語普及協会理事長の戸田佐和先生と常務理事の宮下しのぶ先生を講師にお迎えし、『日本語教育の参照枠』の活用～効果的な日本語学習支援のために～と題して研修会を開催しました。6月には徳島県福祉基金助成事業として、オンライン日本語教室「人とつながる日本語会話」を開講します。地域社会で外国人自身が「できること」を明確に目標として掲げ、目標到達に必要な日本語学習を支援する取組みです。研修会で学びを深めた「日本語学習者を社会的存在としてとらえる『日本語教育の参照枠』の言語教育観」は教室での実践に必ずや生かされることでしょう。

また、外国人が抱える問題を自分事と受け止める契機とするために、私たちは二つの取組みを計画しています。一つは、徳島中央ロータリークラブとの共催事業として、働く外国人の職場での困りごとを聴き、労働に関する法や制度、仕事のマナーや人間関係等の職場風土の観点から解決の道筋をともに考える座談会「教えて！職場での困りごと」の開催です。もう一つは、外国人とともに暮らし働く職場や地域づくりのために、今後ますます周知啓発が必要になっていく「やさしい日本語」の普及について、日本人と外国人がともに考えるセミナーの開催です。

これらの取組みをとおして、日本語習得をはじめ日本の法律や制度の理解がじゅうぶんでないことにより外国人がおかれている様々な状況に向き合い、決して外国人だけではない、すべての人々が直面する地域課題に自分事としてともに立ち向かっていければと願っています。

(JTMとくしま日本語ネットワーク会長 兼松 文子)

2024年度JTMとくしま日本語ネットワーク定例会 セミナー『日本語教育の参照枠』の活用 ～効果的な日本語学習支援のために～

日 時：2025年4月26日（土）13：30～16：00（オンライン形式）

講 師：公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長 戸田 佐和先生
常務理事 宮下 しのぶ先生

参加者：28名

後 援：公益財団法人 徳島県国際交流協会

令和3年10月、日本語学習者を社会的存在と捉え適切な日本語学習支援を継続するための枠組みとして「日本語教育の参照枠」が策定されました。JTMでは日本語学習支援のさらなる充実を目指して、「日本語教育の参照枠」の活用をテーマとしたセミナーを開催しました。日々日本語学習支援に携わる方々が集い、実践に生かすための学びを深めました。



【第1部】「日本語教育の参照枠」を理解する

講師：戸田 佐和先生

〈概要〉

1. 「日本語教育の参照枠」の取りまとめの背景と目的について
2. 「日本語教育の参照枠」の概要・構成図
3. 「日本語教育の参照枠」における言語教育観の3つの柱・日本語能力観について
〈3つの柱〉 ・日本語学習者を社会的存在として捉える
・言語を使って「できること」に注目する
・多様な日本語使用を尊重する
4. 日本語学習者の言語熟達度について
5. 「日本語教育の参照枠」の言語能力記述文（Can do）の構成
6. Can doをベースにした授業の考え方について
7. 評価について
8. 漢字を含む文字の扱いについて
9. CEFRから学ぶこと
10. 終わりに

戸田先生からは、国の日本語教育施策の経緯や、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）を参考に「日本語教育の参照枠」（以後参照枠）が作成されるに至った背景、目的、そして理念や概要がわかりやすく示されました。

参照枠は「言語・文化の相互理解・相互尊重を前提とし、日本語教育に関わる全ての人が日本語の学習・教育などに関して参照する枠組みであり、学習・教育の内容や方法の画一化を図るものではない。」とされています。このことから、必ずしも参照枠に捉われる必要はないのかもしれませんが、しかし、参照枠が示す3つの柱は、間違いなく私たち支援者が学習者にどう向き合うべきかを示してくれています。

支援者として、学習者が「知識を持つこと」ではなく、「知識を活用して何ができるか」に目を向けることを常に意識しておく必要があります。また、学習者が自分自身で「できたこと」を振り返る機会を作ることも

重要で、その積み重ねが自律学習につながると考えます。さらに、学習者が社会的存在として周囲と関係を築くために、仲介者の存在が不可欠であり、支援者もその役割を担う一人であることが強く印象に残りました。

【第2部】「生活Can do」を日々の活動に取り入れる

講師：宮下 しのぶ先生

〈概要〉

1. はじめに～どこかの国で、知らない言語を使って生活するとしたら？～
2. 「生活Can do」一覧表と利用する場合に留意すること
3. 日本語能力の熟達度のレベル感をつかむ (A1～B1)
4. 学習目標に向けての具体的な活動を考える

宮下先生からは、実践的な視点で「生活Can do」の活用法が紹介されました。冒頭の「知らない言語を使って生活するとしたら？」という先生からの問いかけに、参加者からは「買い物」「手続き」「病院で説明」など、数々の切実な「できるようになりたいこと」が挙げられました。

「生活can do」は、参照枠に基づき文化庁によって作成された生活分野での言語能力記述文 (Can do) です。「I 健康・安全に暮らす」「II 住居を確保・維持する」などの10の大分類のもと、785のCan doが挙げられています。地域の実状や学習者に応じて新たな現場Can doを作成してもよいとのことでした。

このcan doをもとに「つながるひろがるにほんごでの暮らし」(文部科学省「生活者としての外国人」の日本語学習サイト) から、レベル1～3の4つの動画を視聴し、登場人物の日本語レベルを考えました。レベル2の「携帯電話」の動画では、話す力だけでなく、文字情報を読む力、やり取りの相手のサポートも加味され、それらを総合してA2かB1かを判断しました。支援者は学習者に向き合う際に、このレベル感を持っておく必要があると感じました。

最後に、A1レベルの買い物場面を想定して活動例を考えました。買い物するときどんなステップで行動するか、そのためにどのような表現が必要とされるか、スモールステップで活動を組み立てる工夫、そして活動を終えたとき、学習者が実際に何ができるようになったか自己評価を促すことが大切であることがわかりました。教材例としてレシートが紹介されていたのですが、学習者の表現を引き出すとても魅力的なアイテムになるということも印象的でした。

従来の「文法を積み上げる」のではなく、「できることを積み上げる」。そのためにはどんな学習目標を立て、どのような活動を組み立てていけばよいか、そしてどうすれば学習者が「できた！」と実感できるのか、学習者一人ひとりの状況に寄り添い、学習者自身も自らを社会的存在であると実感できる支援を続けていきたいと思えます。

(辻 暁子)



とだ さわ
戸田 佐和先生

(公社) 国際日本語普及協会理事長。
主に留学生を対象に教授活動を行う。また「PRACTICAL KANJI」、「中日交流標準日本語」シリーズ等、教材開発にも

携わる。

文科省中央教育審議会生涯学習分科会日本語教育部会委員。



みやした
宮下 しのぶ先生

(公社) 国際日本語普及協会常務理事。
主に難民を対象に教授活動を行う。アジア福祉教育財団難民事業本部日本語教育監督者 (2021～)。文科省「つながるひろがるにほんごでの暮らし」作成チーム。共著に『Reading Road - 多様な日本を読む』など。

アンケートより

- 今回初めて「参照枠」というものがどういうものであるかが理解できた。日本語を学ぶ目の前の人にとって必要なものは何かを常に念頭に置いて柔軟な授業や支援をしていきたい。
- 「日本語の参照枠」は日本語教育の内容・方法の画一化を図るものではなく、学習者各人のレベルとニーズにあわせて柔軟に行うことが重要なのだとわかった。
- 「参照枠」が外国語のレベルだけを図るためだけでなく、根底に社会的存在としてともに生きる仲間になるためのものであるということが学べた。
- 具体的な can-do の目標を立て、学習者に示すことを実践し、動画も活用したい。



2024年度 徳島中央ロータリークラブ共催事業

今年度は3つの共催事業を行いました。徳島中央ロータリークラブのご支援に心より感謝いたします。

外国人のための「きょうから役立つ日本のマナー講座」

日 時：2024年5月20日（月） 10：30～12：00

場 所：徳島県国際交流協会会議室

講 師：澤田 知子氏

参加者：外国人18名

徳島中央ロータリークラブ：野口 計一前会長

はじめに、先生から「マナーとはそれぞれの違いや相手を認めること」であり、「相手の目を見て、時々笑顔を変えてコミュニケーションをとっていくこと」だと、ジェスチャーやパワフルな笑顔を変えて説明していただきました。また「差し支えなければ」や「よろしければ」という「クッションことば」を会話に添えることの大切さも、一人ひとりに語りかけるように伝えてくださいました。

参加者は、「楽しい雰囲気の中で対話があった」「普段、知りたかったこと聞けなかったことが学べて役に立った」「笑顔が幸せを呼ぶ」との感想を述べていました。最後に参加者は、「先生、お世話になりました」「先生、ありがとうございました」と先生から教えてもらったとおりの挨拶とお辞儀をして、素晴らしい時間を楽しく過ごせた充実感あふれる笑顔で帰っていきました。（坂田 優子）



防災センタースタディーツアー

日 時：2024年12月8日（日） 12：30～17：00

場 所：徳島県立防災センター

参加者：外国にルーツを持つ子どもとその家族11名

徳島中央ロータリークラブ：木村 清志会長 藤田 定吉会員

見学にあたって、事前に災害の種類や身の守り方について学習し、各自が課題を持って見学に臨みました。センターでは、防災ガイドダンス、地震体験、消火体験、煙体験、風体験、自由体験及び展示コーナー見学と順次体験していきました。また、エントランスにそびえ立つ「津波」の高さを示す展示物を見たことで、徳島でも「津波」で甚大な被害が発生する恐れがあることが理解できました。子どもたちからは「家の人と避難場所を決めたい」「一緒に防災用品を準備したい」といった意見が出ました。

近年自然災害が多く発生しており、子どもたちにも防災意識を持ってほしいと考え、企画された今回のスタディーツアーは、日本語が十分理解できなくても視覚や体感で災害の怖さがわかり、実際に災害が起きた時に自分や家族の命を守るために何をすべきか、自分事としてとらえる絶好の機会となりました。（吉田 尚子）



職場体験学習

日 時：2025年4月4日（金） 12：30～17：00

訪問企業：株式会社フジタ建設コンサルタント

参加者：外国にルーツを持つ子ども3名

今回初めて職場体験学習をする小学生、中学生、高校生の子どもたちが参加しました。訪問した株式会社フジタ建設コンサルタントは、私たちの生活を支える土木建設や環境に関する測量・調査・設計等の事業を行っている会社です。子どもたちは挨拶や自己紹介、名刺交換をした後、測量体験やパソコン上に図面を描く体験、建築現場でのドローン操作をするためのシミュレーター操作体験を、担当社員の方々にサポートを受けながら行いました。事前に子どもの母語を調べて話してくださる方もいて、和やかな雰囲気での体験学習をすることができました。（北島 由紀）



2024年度JTMチーム活動

にほんご寺子屋

にほんご寺子屋は、毎週日曜日、午後1時半から3時まで、徳島県国際交流協会の会議室で、外国にルーツを持つ子どもの日本語支援を行っています。来日間もない子どもには、日本で生活するためのサバイバルな日本語が必要ですし、何年も日本にいる子どもには、授業の日本語がわかるようになってほしいと思っています。そこで、最初の1時間はそれぞれの子どもにあった個別学習を行い、後の30分は、言葉遊び、クイズ、絵本の読み聞かせ、歌などみんなで考えたり、話をしたりする全体学習をしています。私たちは、このにほんご寺子屋が子どもたちにとって、ここに来れば仲間がいる、ここに来るのが楽しいと思える居場所になればと思って活動しています。

(長町 順子)

日本語サロン

日本語サロンは、毎週月曜日の午前10時半から12時まで、徳島県国際交流協会会議室で、日本語支援を行っています。2024年度には、21ヶ国のべ484人の参加があり、2019年からはのべ1,500人を超える外国の方々がサロンにきています。支援は、学習者のレベルや目的に応じてマンツーマンで行っていますが、学習者が多い時にはマンツーマンとはいきません。その場合も、学習者のニーズに応えられるよう工夫をこらしています。サロンが外国の人たちにとって心の支えとなり、徳島に住んで良かったと思ってもらえるように支援を続けていきたいと思っています。

(坂田 優子)

学校支援

JTMは、徳島県が行っている『帰国・外国人児童生徒トータルサポート事業』に運営委員として参加するとともに、学校現場からの支援要請を受けて、県から派遣される形で日本語支援員として活動しています。2024年度は県内で90名の支援要請があり、そのうちの49名（小学生36名、中学生11名、高校生2名）を学校支援チームの13名で担ってきました。基本的に取り出し授業をマンツーマンで行い、その子どもの状況に応じて、例えばゼロレベルの子どもにはまず教室で先生の指示が分かるように、サバイバルな日本語に重きを置き、ひらがな、カタカナ、漢字へと進めていきます。そして子どもの様子を見ながら学習言語の習得へと導いていくようにしています。支援状況はチームで共有し、より良い支援につなげるよう努力しています。

(杜 美智)

日本語指導部

オンラインで月1回行われる研修会では、その月の担当者が1時間程度の模擬授業を行います。使用テキストと内容は担当者が決め、今年度は『できる日本語』『みんなの日本語』『人とつながる介護の日本語』『日本語能力試験Try!』などを取り上げました。担当者以外は学習者になりきり、わからないところを質問したり、学習者が間違えそうなところをわざと間違えて答えてみたりするなど、実際の授業に近づけるような工夫をしています。模擬授業後は学習者と指導者両方の立場から、感想や意見、提案などを発表し、今後の指導に生かしていきます。時には厳しい意見もありますが、それが一番の学びになります。もちろん、担当者以外のメンバーにとっても、新たな気づきがとても多く、最高の学びの場となっています。

(加村 匡子)

日本語指導勉強会

毎月1回、JTM作成のテキスト『こんにちは とくしま』を使って、会員の日本語指導の上達を目指し勉強会を行っています。2024年度は10回開催、会員のべ59人、見学者2人の参加がありました。勉強会の内容は、事前に申し出たメンバーがその日勉強する課のトピックを取り上げ、5分間の模擬授業を行います。他の参加者は学習者になりきり、模擬授業に参加します。その後、まず学習者として授業のわかりやすさなどを話し合い、次に日本語学習の支援者として、改善点や参考になる点を意見交換しています。最後に司会者がその課の到達目標や指導のポイントをまとめた要約を配り、参加者の理解を深めます。テキストを何度繰り返し勉強しても毎回新たな気づきがあり、ことばの奥深さや難しさに魅せられています。

(竹治 博)



写真で綴る

JTM総会(6月1日)



日本語サロン



にほんご寺子屋



春休みにほんご寺子屋
職場体験学習



日本語指導勉強会



日本語指導部研修会



JTMの活動

JTM日本語講座「学ぼう!話そう!使える日本語」



外国人のための 「きょうから役立つ日本のマナー講座」



「技能実習生日本語講座」(株式会社土佐電子)



徳島県委託 夏休み子ども日本語教室



「介護の日本語会話教室」



他にもこんな活動をしています。

- 徳島県国際交流協会「日本語教室」日曜日担当
- 学校からの要請による日本語支援
- 徳島文理大学
「日本語能力試験 N1 対策講座」
「夏期日本語・日本文化研修」担当
- 企業での日本語教室
- プライベートレッスン
- 運営会(オンライン会議)月1回
- 会報『スマイル通信』月1回発行
- 機関誌『あわゆずぶれす』年1回発行



INFORMATION

◆会員数(2025年4月25日現在) 正会員数39名 協力会員数4名
 ◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。
 協力会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
 *毎月第2土曜日13:30~15:00
 〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方
 ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
 *毎月第2または第3土曜日
- ◇定例会



日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
 *毎週月曜日10:30~12:00
 徳島県国際交流協会(トピア)会議室
- ◇にほんご寺子屋
 *毎週日曜日13:30~15:00
 徳島県国際交流協会(トピア)会議室

徳島県福祉基金助成金事業

- ◇オンライン日本語講座「学ぼう!話そう!使える日本語」
 2024年10月1日~12月12日 週2回(火・木)
 昼コース 13:30~15:00
 夜コース 19:30~21:00 各コース全22回

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会主催講座

- ◇日本語能力試験N4対策講座
 2024年7月13日~12月3日
 オンライン 火・木曜日 18:30~20:00(39回)
 スクーリング 土曜日または日曜日(3回)

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
 *詳しくは事務局またはレッスン専用メール
 jtmtoke-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために



2020年2月
 「教え方の手引き」発行

子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の手書き方の練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入・お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

- ・徳島県福祉基金より助成金をいただきました。
- ・国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会および徳島中央ロータリークラブより補助金をいただきました。

あ と が き

世の中は大きな災害や紛争で心が休まる時がありませんが、私たちは自分たちにできることを少しずつ前進させています。定例会では『日本語教育の参照枠』について多くの学びを得ることができました。今後の活動に生かしていきたいと思っています。

2024年度の活動をまとめた『あわゆずぶれす』第41号ができました。

ご覧いただければ幸いです。(杜 美智)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山満十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・玉置 房・辻 暁子・長町 順子

杜 美智・吉田 尚子・渡辺由紀子

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmtoke@nifty.com

URL <https://jtmtoke.com/>

<https://www.facebook.com/jtmtoke/>



HP



フェイスブック